あやかしびと～語られぬ壱つの物語～

千歳鷲介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
あやかしびと～語られぬ壱つの物語～

【Ｎコード】
Ｎ１９７９Ｍ

【作者名】
千歳鷲介

【あらすじ】
第二次世界大戦後、世界中で通常ではありえない力、性癖、容姿をもつ人間たちが現れるようになった。これらは一括してある病気として規定され、これを俗に「人妖」と呼称された。
そして、現代。
その覚醒した能力が危険だと判断されると隔離させられる一つの孤島の病院があった。そこに送られた人妖病患者たちは島から出ることもできずに生活していた。
しかし、ある日病院からある青年と少女が脱走する事件が起こる。

・・・これは表の話、誰もが気づいていなかった。もう一人、病院から青年がいなくなっていたことを・・・

これはあやかしびとの語られていない悲しき物語。

零話　始の刻（前書き）

二つ目の作品です。
まだまだ文章表現がへたですが、もしよかったら見てやってください。

零話　始の刻

その日は土砂降りの雨だった。しかし青年は久しぶりに出れた外だったので気にもせずに雨にうたれながら歩いていく。歩いていく内に自分の顔や体についていた鬱陶しいものが流されていくのがわかった。

「・・・まだ聞こえている。誰かはわからないけど行かなくちゃ」

青年はそう呟きながら森の奥に消えていった。

その日、病院からは確かに三人の人物が脱走した。

太平洋戦争が終わってすぐのことである、世界の一部地域で――日本も含めた――ある”奇病”が流行りだした。

人ならざる力を持つもの。
人ならざる姿を持つもの。
人ならざる心を持つもの。

異才異形、人の皮を被った奇妙な生物たち。
政府や大多数の人間は恐れ、怯え、彼らを迫害し、隔離し、根絶しようとさえした。
現代に至っても、彼らに対する偏見は根強い。だが、その偏見は――どこか羨望にも似ていた。
そう、逆なのである。優れているが故に、”病気”とされ、”患

者”として収容されていた。

病名を、後天的全身性特殊遺伝多種変性症という。――通称”ＡＳＳＨＳ”。

ただ、この正式名称も略称もさほど認知されている訳ではない。

彼らを恐れ、あるいは嘲るために、もっと状況に即した呼び名があった。誰がそう呼び出したのかは定かではないが、誰もがこう呼んでいる。

古来から伝わる、伝説上の存在たちになぞらえて。

”人妖”――人でありながら、妖の力を持つものと。

脱走事件が起きて二十四時間がたった。事件が起きた島、琥森島の織咲病院に二人の人物が調査に来ていた。

一人は短髪でどこか中性的な魅力が感じられる女性――飯塚薫。もう一人は髪は長いが色が白髪で、片方の眼に眼帯をつけている男性――九鬼耀鋼。

二人は尋問を終え、病院の裏手にある森にいた。

「わからない」

「何がわからないのかね？」

飯塚薫が一言もらすと九鬼耀鋼がそう尋ねてきた。立場的に言えば彼女の方が上司なのだが彼に対してはあまり気にせず答えた。

「わかって聞いているでしょう九鬼さん。今回の脱走事件についてですよ」

彼にそう言いながら薫はポケットから煙草を取り出した。素早く九鬼がライターで火をつける。

「あぁ確かに。今回の事件はわかっていることよりわからないことの方が多いですからな」

そうなのである。先ほど、病院にいる患者、医者、警備員を尋問して聞いた話をまとめるとこうなる。

脱走したのは男性患者、番号２２７”武部涼一（たけべりょういち）”と一人の少女。武部涼一の情報は病院にあるカルテと証言でほぼ把握できた。彼は病院でもトップクラスの古株である。問題はもう一人の少女の方である。少女は病院の患者名簿になかった。誰も彼女のことをしらず一切の情報がないのである。

そして、監視カメラの映像を見た限り、彼らを追った数十名の警備員は――むざむざ、目の前にいた二人をそのまま船着場までぼんやりと見守り続けたのだ。その警備員たちを尋問するとほぼ同じ内容が繰り返されるのみだった。

曰く、操り人形になった気分がした。

曰く、頭が真っ白になって気づいたら体が声に逆らえなかった。

曰く、そうしなければ、と思った。

だそうだ。全員が少女の声に逆らえなかったらしい。

ここまででも訳がわからないというのにもう一つ謎があった。

彼らを追っていた警備員の負傷者はゼロだった。医者と警備員が一名ずつ、番号２２７が脱走する際に昏倒させられていたが、さほど傷が重いわけではない。彼らは一人も殺していなかったのだ。

「しかし、この森付近で死体が見つかった」

そう、九鬼さんの言う通りこの付近で数名の警備員の死体が見つかった。無残にも死体は全て頭が吹き飛んでいた。
これも脱走した二人の犯行だと考えられれば問題ないのだが、監視カメラに二人が映っていた時刻と死体の死亡時刻が同じだったのである。
つまり、この警備員は他の”誰か”に殺されたことになる。

「誰かは知らないが余計な事をしてくれる」
「だけど隊長。そちらは我々が追跡するのに関係がない。放っておこう」
「・・・・・了解した」

九鬼が歩き出す。それを追って薫も歩き出した。
森からでる寸前に薫は振り返って、暗闇に何か隠されたものがないか見極めようとした。

何もない。
全く、何もない。

深くて暗い深淵を覗き込んでいる気分だった。

「隊長」

九鬼の声で我に返る。

「ああ、すまない。・・・・・行こう」

武部涼一、患者番号２２７の脱走事件には多くの謎が残されていた。

逃亡の方法。（どうやってここから逃げた？）
逃亡の動機。（なぜ、ここを逃げようとした？）
逃亡の過程。（どうなって、ここを逃げ延びた？）

そして、正体不明の少女。正体不明の能力。
飯塚薫（ドミニオン）――人妖追跡機関、第十七戦闘隊の長である彼女には未だわからないことが多すぎた。

しかし、何か絶対に見落としてはいけない事があるという不安感がいつまでも彼女に纏わりついていた。

零話　始の刻（後書き）

こっちの更新は少しずつになるかもしれないです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1979m/

あやかしびと～語られぬ壱つの物語～

2010年10月11日03時42分発行